

VetScan® products by
ABAXIS

*Vet***Com**

September 2006



株式会社 **セントラル** 科学貿易

ケーススタディ

T4 スクリーニング：猫甲状腺機能亢進症と院内血液検査

寄稿：Dr. クレイグ・トックマン (Dr. Craig Tockman)、DVM



T4 スクリーニングが可能に！

VetScan Classic または *VS2* の血液検査機器は数分のうちに結果が出て、すぐに治療やフォローアップ検査が始められます！

健診目的の血液検査は、多くの動物病院で総合的ヘルスケアの一つとして組み込まれています。早期診断は、動物たちに、QOL の高い日々を長くもたらしめます。患者に対するケアの質が高まり、飼主の満足度も増し、そして提供できる医療の幅も広がって、収益向上にもつながります。

健診目的の血液検査で見過ごされることが多い中高年の猫における甲状腺機能亢進症のスクリーニングもサポート可能です。年に一度の甲状腺機能亢進症の検査に、有用な T4 値を活用してほしいものです。当院では T4 テストを様々な場面で利用しています。当院の健康診断目的の検査で猫甲状腺機能亢進症のスクリーニングは、重要項目の一つとなっています。

猫甲状腺機能亢進症は、中高年の猫における内分泌疾患のなかで最も頻度の高い疾患ですが、老若を問わず発症の恐れがあります。甲状腺ホルモンの血中濃度が過剰となり、多臓器代謝異常を引き起こします。T4 および T3 の高い血中濃度は、基礎代謝率が高まり、患者の身体がその上昇に対応できなくなることによって臨床兆候が発現します。

猫甲状腺機能亢進症の原因には、良性腺腫様過形成や甲状腺癌が考えられますが、癌は原因のケース全体のわずか 1~2% にすぎません。腺腫様過形成は特発性の疾患です。猫甲状腺機能亢進症の診断は、ほとんどの場合、総 T4 濃度の上昇データのみで可能です。T3 濃度は、それほど重要ではありません。その他の診断の手がかりは、患者の全身の健康状態および甲状腺機能亢進症の続発症の確認です。

当院の健診プログラムでは、若い猫には 6 項目化学検査パネル、中高年の猫には 6 項目化学検査パネル、CBC、および T4 を、そして高齢のネコについては 14 項目化学検査パネル、CBC、および T4 が、それぞれ推奨検査として設定されています。高齢の患者では尿検査も推奨項目に入っています。院内検査はすぐ



に結果が得られ、飼主との相談や鑑別診断へスムーズに移行できます。再来院を待たずにその場で鑑別診断を提案できることで、電話での連絡・相談や何度も通院する時間や手間も省け、飼主のコンプライアンスも飛躍的に向上します。

総 T4 値が正常の高め、または僅かに上昇しているが、臨床症状が認められない場合は、2～3 週間後に再検査します。これは、T4 値が日変動する可能性があるためです。再検査で T4 値が高いという結果が得られた場合は、甲状腺機能亢進症を念頭に置いて診断します。確認のために遊離 (F) T4 値や TRH 反応検査を実施することもあります。

T4 濃度が明らかに高い場合で、特に甲状腺腫大が触診可能なときは甲状腺機能亢進症が示唆されます。この場合は、当院では第一の選択肢として放射性ヨード療法をお奨めしています。そのほか、外科手術やメチマゾール療法も可能です。



治療後、方法はさまざまですが頻繁なモニタリングが必要です。放射線療法や外科手術を実施したケースでは、6～12 月間ごとに、モニタリング検査を実施し、再発の有無や、甲状腺ホルモン補充療法の必要性を判定します。メチマゾール治療を実施した場合は、導入療法の期間中、2～3 週ごとに T4 値および CBC を実施します。さらに、年 2 回、治療反応をみるモニタリングのため T4 値検査を実施します。院内検査が可能なことで、薬量の増減もすぐに実施でき、飼主とのコミュニケーションもスムーズに運びます。

T4 値テストは、体重減少、過食、多飲／多尿、あるいは心臓疾患など明らかな甲状腺疾患の臨床症状がない患者にも有用です。

このようなケースも、CBC、生化学検査パネル、および T4 値をサポートした院内テストによって、病気を見過ごすことなく完璧な診断が可能です。採血から 10 分後には検査結果が得られるため、その場で飼主と治療や詳細診断について相談し、直ちに次の手を打てます。

T4 をサポートした健診目的の血液検査プログラムを確立することで、猫の患者によりよいヘルスケアを提供可能となります。甲状腺機能亢進症を含めて、臨床症状の発現に至っていない患者が多数判明するでしょう。結果、よりよい診断と医療の提供が可能となり、飼主の満足度の向上やクライアント関係が改善し、スタッフの姿勢も積極的になります。もちろん収益の増加にもつながるように、メリットは多々あるでしょう。

監訳 株式会社セントラル科学貿易

米国 ABAXIS 社 発行「Vetcom 2006.9 月号」より

※本内容は米国での症例であり、日本国内では異なる場合が御座います。